

Top

トップと語る

52

interview

株式会社タナック



株式会社タナック 代表取締役

棚橋 一成 氏

◎聞き手

十六総合研究所 取締役社長 秋葉 和人

Kazunari Tanahashi

TANAC Co., Ltd.

中小企業の中で一流の企業になりたいです。一流企業とは、社員全員が言葉遣い、接客、人間性も含めて一流であることです。

株式会社タナックは、1996年に岐阜市でシリコン材料・加工品の販売業として創業。シリコンやゲルなどの、素材に関する豊富な知識や、高度な配合・加工技術を有し、多くの業界・企業から信頼をよせられています。当社の超柔軟ゲル素材は、伸縮性・耐熱性・衝撃吸収性などに優れており、同分野のトップニッチメーカーを目指して、絶えず挑戦を続けていっています。

本日は株式会社タナックの医療工場である各務原テクノロジーセンターをお訪ねし、代表取締役の棚橋一成様からお話を伺います。

シリコンの可能性に期待し創業

—— 御社は1996年に設立、来年には25周年を迎えられます。創業から今日に至るまでの沿革についてお話し願います。

●棚橋代表(以下、敬称略) 私の前職はシリコン素材メーカーの営業でした。あらゆる業界の、あらゆる分野で使われているシリコンに可能性を感じ、1996年に独立・創業しました。当初はサラリーマン時代に取り引があった加工メーカーに協力してもらい、工場を持たずに外注生産するファブレスの形態で事業をスタートしました。今後の成長が見込め、イニシアチブを取れる業界はどこか、シリコンの機能を活かし、付加価値を高められる分野は何かと考え、1つ目の事業である健康・美容分野を選定し、通販商品を企画して市場に卸し始めました。最初はOEMでしたが、現在は自社ブランドも展開し、骨盤ベルト、膝サポーター、化粧・美顔用品などを製造販売しています。

ファブレスで展開していましたが、自社工場で製造するメーカーの優位性を前職で経験しており、いず

れは自社で工場を持ちたいと考えていました。ちょうど創業10年目の2006年に、愛知県豊川市の外注工場の廃業がきっかけで、居抜きで引き継ぎ、優秀な社員も2人残ってもらい、機械1、2台で生産を開始しました。

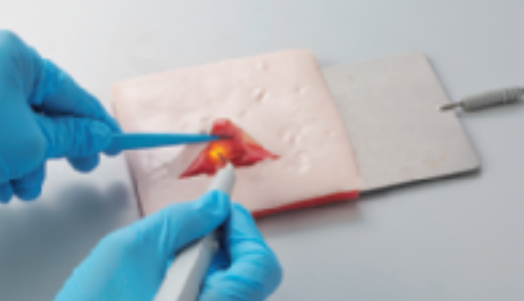
2つ目の事業である医療分野に進出したのもこの頃です。2012年には「HOSPEX JAPAN」という国内最大級の医療展示会の経済産業省ブースに出展させていただきました。製品としてはままならない状態でしたが、柔らかさを追求した素材を展示しました。それがきっかけで、2013年に中部経済産業局から戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)に採択され、それから3年間、補助金を活用しながら医療関係の研究を続けました。そして、2016年には各務原市に念願の医療工場が完成しました。医療を手がける工場なので、建屋を清潔にしてクリーンルームを備え、お客様の信頼を得るために最新鋭の評価機器を入れました。2017年には医療の国際規格「ISO13485」の認証を取得しました。これは、多くの企業が取得している「ISO9000シリーズ」とは勝手が違い、取得が大変難しく、日本でもまだ1,000社ぐらいしか取得していないところを認証クリアできたことには満足しております。これにより、ISO、医療機器製造業認定、自社医療工場の3つの基盤が整いま

した。その後4年で技術者が5人入社し、工場の合理化などに取り組んでいます。医療分野は当社の主力事業に成長し、現在は手術の練習などに使われる模擬人体モデルを中心に製造しており、アイテム数も1,000を超える実績を積み上げてきました。

3つ目の事業はロボット・航空宇宙分野です。ロボット事業では、義手・皮膚など衝撃吸収を機能として有する箇所



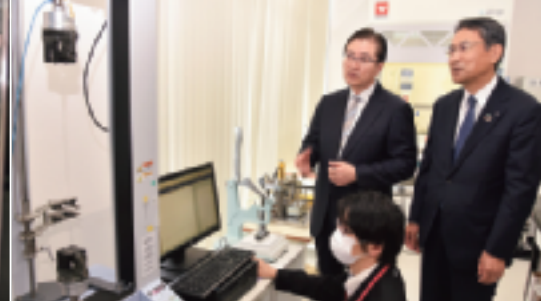
株式会社タナック 代表取締役 棚橋一成氏(右)、十六総合研究所 取締役社長 秋葉 和人(左)



電気メス手術訓練用臓器モデル



オリジナルの素材から様々な製品を生み出す



評価分析機を揃え、安定品質を追求

を中心に開発しております。航空分野ではシリコーンゴム製継手を数点受注し、ロケット分野では、耐熱性向上のための断熱材が採用され、また、宇宙分野においては、宇宙ゴミの回収を目的としたデブリ事業にも参画しております。

展示会を活用、お客様の問題解決に挑む

—— ゲルやシリコーンの加工技術・ノウハウを強みに、様々な分野に展開されています。

● 棚橋 当社の製品をセールスする場としては展示会が有効ですが、すぐにはリターンを見込めません。継続して出展し続けるには体力の問題もあります。今年はコロナ問題で展示会の中止が相次いでいますが、ここ数年は、年間10回程度継続して出展しています。当社の技術を見てもらいながら、私どもが知らない世界についてのアドバイスもいただけます。毎回「こんなことを考えている企業があるのか」といった新しい発見があります。

例えば、紙おむつや下着の通気性・着圧評価のために、赤ちゃんの模型の製作依頼や、年齢別の女性のボディを作って欲しいという話がありました。自動車業界からは、車がぶつかった時に、人間の骨、皮膚、臓器がどんな損傷を受けるのかについて調査したいという話があり、大学との共同研究で臓器モデルを使いデータを数値化して立証しています。また、これから自動運転の時代になりますとぶつかりにくくなるため、車はリビング空間と同じになり、重厚な素材から柔らかい素材に置き換わっていく、という発想があるそうです。化粧品業界からは透明で「見える化」した皮膚モデルを使って研究を行いたいという依頼がありました。ロボットの分野では、ロボットの皮膚を柔らかく優しい、人間のような皮膚感覚にできないかという話もいただきました。これまでのボディは硬い鉄や樹脂でできており、介護ロボットの場合、お年寄りは精神的に疲弊するそうです。私どもが想像しなかったこうした課題をお客様からいただくことは、やりがいに結びついています。

展示会に出展すると毎回500人ぐらいの方にご来場いただき、素材の面白さを知ってもらえます。見に来られたメーカーの方が当社の技術を覚えていて、2、3年後に声をかけていただくケースもありました。展示会は非常に有効であり、お客様との接点となっています。ホームページにも毎日1,500ぐらいのアクセスがあります。当社では、この展示会・ホームページからの営業に傾注しております。

大学との共同研究で信頼度も向上

—— 大学との共同研究にも力を入れていらっしゃいます。

● 棚橋 医療分野を伸ばしていく方針を決めたのですが、中小企業が単独でやるのは非常に遠回りだと分かり、公的機関、大学とのコラボレーションで研究開発を行っています。共同研究を通じてしっかりとデータで裏付けすることで、信頼度が高まります。積極的にアプローチし、大学、教授を紹介していただきながら、現在も様々なプロジェクトが進行中です。

岐阜大学とは医学部、工学部など各学部と共同研究しています。最近では電気通信大学、横浜国立大学と触覚フィードバック付きの筋電義手の開発を行っています。外側のグローブ部分を当社が製作担当しました。つかんだものが柔らかいか硬いかをフィードバックセンサーによって感知して、義手がつかむ圧力を決めるというもので、人間と同じ機能を義手に持たせる研究です。手には物を保持するために指紋、しわがあるので、そのしわの深さも高精度に測定して再現しています。

近畿大学とは注射のシミュレータ、慶應義塾大学とはマスク、山口大学と筑波の産業技術総合研究所とは模擬骨の研究を行っています。骨の様々なエビデンス・データを持っているのは世界で1社、米国のメーカーだけですが、当社が国内で作った骨モデルが偶然、そのメーカーのモデルに似ていて驚かれたことがあります。模擬骨は、骨のボルト打ちの練習、クラッシュの検証などに必要とされています。西洋人の骨は大きいので、当社が作った東洋人の骨へ

のニーズは高いです。形だけでなく機能もどこまで人体に近づけるか、有効なエビデンスの取得にこだわり、時間がかかっても評価検証を重ね、最終目的としてJIS標準化を目指しています。

宇宙の分野からコロナ対策用マスク開発まで

—— 宇宙ゴミの回収にも取り組んでいらっしゃいます。

● 棚橋 東京大学の先生からの紹介で、シンガポールの企業からデブリを採る「とりもち」を作って欲しいと言われました。接着剤のようなベタベタしたものでデブリを採る仕組みで、磁石方式との2種が今年打ち上げるロシアのロケットに搭載される予定です。今宇宙では、人工衛星の壊れたものなど直径10cm以上のデブリ約2万3000個が秒速8kmで地球を周回しているそうです。人工衛星はどんどん打ち上げられているので、デブリにぶつからないように清掃をしないとダメです。

—— 新型コロナウイルス感染症拡大時には、「マスピタ」を開発されました。

● 棚橋 マスピタはマスクの上から着用してマスクの周りにすき間ができないように押さえ、ウイルスの出入りを防ぐ、ゲル製のカバーです。コロナ対策で出張ができなくなり、社内にいた営業マンや、技術、製造担当者が会議を重ね、マスピタのアイデアが生まれました。「これはぜひともやろう」と社内が一丸となり、3日ぐらいで構想をまとめあげ、3週間で完成させました。トップダウンではなく、社員から出たアイデアです。

おかげ様で1か月間に3万5000枚の出荷があり、販売先の



マスピタ



テクノロジーセンターの医療工場

約5割が病院・歯科医院を含めた医療従事者でした。もっと医療の現場で役立ててもらおうと、岐阜大学医学部附属病院、岐阜市民病院、岐阜県総合医療センター、聖路加国際病院、松波総合病院など医療機関に寄付しました。この度改良を加え、慶應大学とマスピタを付けた時のウイルスの漏れ、侵入、飛散の試験を行い、9月に2種類を発売しました。

スモールニッチ市場のトップを狙う

—— 美容分野では、女性が大活躍だとお聞きしました。

● 棚橋 5年ほど前まで当社は男性社会で、女性は製造現場にしかいなかったのですが、国から地方創生などの話が出てきた時、私も少し勉強をしました。女性の優しい目線、細やかな感性で商品をプロデュースしてもらえれば面白いと思い、新卒の女性社員を採用しました。彼女たちは発想がユニークで、「カワイイから発売したい」と言います。「カワイイだけで売れるのか」と考えてしまいましたが、私自身も変わっていかなければと思い、それを非難せずに受け入れ、任せています。女性の活躍は今後企業が生き残るために必要だと考えています。ワークライフバランスに配慮したり、就業規則を変えたりすることは、会社にとってもいい事だと思います。営業職だけでなく、女性デザイナーや女性のケミストも採用して女性だけの美容健康関連の事業部を立ち上げるのが夢です。

—— 御社の強みはズバリ、こういったところにありますか。

● 棚橋 当社の方針として、ニッチよりもっと狭いスモールニッチ市場をターゲットにしている点があります。国内の市場規模が5億円でも、他社が手がけない付加価値の高い市場なら、当社が100%網羅できるよう取りにいきます。中小企業はこうした市場を狙わないと生き残れません。量を追うのではなく付加価値を追うことに強くこだわっています。その実現の

ために、組織を作り、データを整備し、他社の追随を許さない体制で臨みます。お金はかかりますが、楽しみでもあります。

製品については、自社配合で開発した材料を使用しています。豊富な材料知識と高度な配合・加工技術、商品化のノウハウを持ち、きちんとしたデータで裏付けをしているところは当社の強みです。また、当社では、素材ごとにブランディングしており、シリコンの「タフシロン」、エラストマーの「クリスタルゲル」、ウレタンの「メディピュール」の商標を取得した3つのオリジナルブランドがあります。こういった取り組みも、お客様からの信頼につながっているのではないかと思います。

—— 海外展開も考えていらっしゃいますか。

● 棚橋 臓器モデルを中心に、今後は東南アジアにも進出したいと考えています。信仰上の理由で解剖等ができない国があり、医療レベルの向上に、当社の製品がお役に立てばと思っています。

また、臓器モデルを国際規格にしたいと考えています。昨年、産業技術総合研究所、国立大学、薬品メーカー、加工メーカーなどが集まり「医療用立体モデルコンソーシアム」が発足しました。当初から当社も参加しており、臓器モデルのISO化を目指して、協議を重ねています。欧米ではすでに国際化に向けて動き出しているので、日本でも進める必要があります。

社員とともに一流の中小企業を目指す

—— 今後の経営の中で実現したいことや、展望、夢などをお聞かせください。

● 棚橋 ポテンシャルはあると思っていますので、ニッチトップを目指します。社員数は50人以下で、高利益をあげられ、社会貢献度の高い会社を目指していきたいと思っています。

私の夢を言葉で表すと、中小企業の中で一流の企業になりたいです。一流企業とは、社員全員が言葉遣い、接客、人間性も含めて一流であることです。そう考えるようになったのは、ある外資系大手医療メーカーの部長さんが中小企業の私に対して、上から目線ではなく、とても親切に接してくださったことが

きっかけです。その方だけなのかと思ったら、他の社員さんも親切だったのでお聞きしたところ「うちは人の命を預かる会社だから、人への心遣いが根底になければなりません」と言われ、目から鱗が落ちたのを今でも忘れられません。社員教育がしっかりしていて、企業理念がすみずみまでいきわたり、お客様からありがたいと言われる企業でした。当社もそうありたいと常々思っています。今後も、社員には「一流になろう」と言い続けていきます。

また、当社では工場見学を月に5、6団体受け入れています。みなさんに喜んでもらおうと女性スタッフが案内の札を作ったり、お土産を準備したりしながら対応してくれます。小学生が最後の感想で「僕この会社に入りたいです!どうしたらいいですか?」と言ってくれたんです。この言葉は嬉しかったですね。これからもその様に言っていただける会社であり続けたいと考えています。

—— 社長さんの志の高さを感じました。社員の皆様にもその思いが伝わっているようです。今日はありがとうございました。

テクノロジーセンター
エントランスにて



各務原テクノロジーセンター

- 【会社概要】 ■ 本社／岐阜県岐阜市元町4丁目24番地
■ 設立／1996年11月
■ 資本金／3000万円
■ 従業員数／40名
■ 事業内容／シリコン・ゲルの加工および加工品の販売